

令和5年9月29日

保護者 様

浅羽学園 浅羽東小学校長 田中 慎

令和5年度 全国学力・学習状況調査等結果分析<詳細版>

日ごろ、本校の教育活動に御理解・御協力をいただき感謝申し上げます。

10月21日に行われる運動会に向けて学年団や応援団の練習が始まりました。様々な行事や活動を通して、達成感や充実感を味わえるよう、指導・支援していきたいと思えます。

さて、5月に行われた全国学力・学習状況調査や袋井版学力調査についての詳細な分析を行った結果と今後の方針がまとまりましたので、お知らせいたします。今後も日々の授業を大切にして、学力の向上を目指してまいります。

1 教科に関する調査結果

〇6年 全国学力・学習状況調査結果

	国語					算数				
	合計	言葉の特徴 や使い方	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	合計	数と計算	図形	変化と関係	データの 活用
本校	60.0	66.6	60.9	22.4	63.2	55.0	60.3	37.5	64.7	66.1
全国平均	67.2	71.2	72.6	26.7	71.2	62.5	67.3	48.2	70.9	65.5

〇5年 袋井版・学力学習状況調査

	国語					算数				
	合計	言葉の特徴 や使い方	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	合計	数と計算	図形	変化と関係	データの 活用
本校	68.3	74.4	84.0	42.0	52.7	61.0	64.8	58.7	57.6	57.0
全国平均	70.6	73.5	84.6	59.9	57.2	64.1	65.6	63.7	60.6	65.4

≪6年生≫

- 国語科は、「書くこと」については、昨年度の袋井版・学力学習状況調査で20ポイントの差がありましたが、今回は4.3ポイントの差となり改善がみられ、日頃より自分の学びを文章にまとめている活動が改善につながったと考えられます。

ただし、「話すこと・聞くこと」では、全国平均を大きく下回る結果となりました。その中でも、「話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと」の中心を捉えることができることに課題がみられました。

- 算数科は、「データの活用」については、全国平均を上回る結果となりました。しかし、「図形」では、全国平均を大きく下回る結果となりました。その中でも、「底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断する」ことに課題がみられました。

≪5年生≫

- 国語科は、「言葉の特徴や使い方」で全国平均を上回り、学んだことが身に付いているという結果となりました。ただし、「書くこと」に関する領域で、問われていることに対して正確に文章で答える力に課題がみられました。

- 算数科は、「数と計算」の領域においては全国平均と同程度で、基礎基本が身に付いている結果でしたが、「データの活用」では大きく下回り、課題がみられました。

2 児童意識調査について（6年生 全国学力・学習状況調査より）

数多くの質問項目で児童の生活の様子や学習への取り組み方について調査しました。本校の傾向は以下の通りです。

（全国平均と比較し、値が高いものを○、値が低いものを●とし、複数抜粋）

- 毎朝、同じくらいの時間に寝ている。
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
- 学校に行くのは楽しいと思いますか。
- 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか。
- 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。
- 授業で学んだことをほかの学習で生かしていますか。
- 国語の授業で、立場や考えの違いを認識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめていますか。
- 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか。
- 将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか。
- 自分には、よいところがある。
- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
- 将来の夢や目標を持っていますか。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

3 今後の対応について

授業においては、「?型の授業」（課題解決型授業）のさらなる充実を目指し、子どもたちが課題を自分事として捉え、学びの実感を重ねることができるよう、指導・支援してまいります。また、ICTを活用しながら、考えを整理することや、伝えたい中心を聞き取ったり、自分の考えを分かりやすく伝えたりするような経験を重ね、一人一人の理解が深まるように、指導・支援してまいります。他に、学習アプリの活用を推進していくことで、子どもたち一人一人の定着度合いに合わせ、漢字や計算といった基本的な学習の復習機会を増やしてまいります。

さらに、国語科では、読み取ったことを文字数制限やキーワードを指定する等の条件を示し、学習した用語を使って条件を満たした文章を書くという経験を重ねます。

算数科では、各学年で履修する計算の仕方や図形の特徴等、基礎的な内容の確実な定着を図るとともに、自分の考えを式や図、表などを使って相手に分かりやすく説明する機会を意図的に設定してまいります。

意識調査から、教科の重要性や利他的な考えに対して肯定的な姿勢がある反面、学校生活や将来への不安を感じている子どもがいることが分かりました。本校の重点目標「自分も相手も大切に作る子の育成」を、知育・徳育・体育の取組みの軸として今後も進めてまいります。また、育成には家庭や地域での励ましも欠かせません。家庭学習や生活の中で、お子さんの頑張る姿への励ましや認める声掛けを今後もよろしく願います。

学校では、子どもたちの学びが深まるよう、授業改善に努め、一人一人に寄り添った指導・支援をしてまいります。今後も、本校の教育活動への御理解と御協力をお願いいたします。

浅羽東小学校(教務主任)
櫻井 英喜
TEL 0538-23-6669

保護者の皆様へ

令和5年度 全国学力・学習状況調査の市全体の結果について

袋井市では、幼小中一貫教育の仕組みを生かし、子どもたちの「考える力」を育むための授業づくりを進めています。子どもたちは学習課題と向き合い、問いに対する様々な考えを「関係付け」ながら自分自身の納得のいく考えを見出していきます。

この調査では、子どもたちの学力だけでなく、日々の生活や学習の状況調査も行っています。それにより、規則正しい生活習慣や学習習慣と、子どもたちの学力との関係性が明らかになりました。学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを支援していくことが、子どもたちの成長には欠かせません。保護者の皆様のお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

本年度の調査結果と分析
について説明します。



1 調査の概要

- (1) 実施日 令和5年4月18日（火）
- (2) 対象 小学校6年生（898名）、中学校3年生（767名）
- (3) 実施内容 国語・算数（数学）・英語の学力調査
※英語は中学生のみ
学習状況調査



学力調査は、子どもたちが身に付けるべき学力の一部を測定したものです。すべての学力を表したものではありません。

学習状況調査とは、子どもたち自身の学習に対する意識や、日常生活習慣等の実態について調査したものです。

2 学力調査と学習状況調査の結果

(1) 学力調査

	小学校		中学校		
	国語 (14問)	算数 (16問)	国語 (15問)	数学 (15問)	英語 (17問)
袋井市	65	59	69	52	44
全国	67.2	62.5	69.8	51.0	45.6

※ 袋井市の結果については、整数での集計となっています。上記の結果は、問題の軽重に関係なく、全問題のうちの正答した割合（平均正答率）を示したものです。

(2) 学習状況調査

① 肯定的な回答の割合が高かった主な項目	小学校	中学校
朝食を毎日食べていますか。	93.9	91.2
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	95.9	94.6
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	91.4	90.1

② 肯定的な回答の割合が昨年度より高くなった 主な項目	小学校		中学校	
	本年度	昨年度比	本年度	昨年度比
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	82.8	+28.9	71.1	+21.0
自分にはよいところがあると思いますか。	86.4	+6.0	83.2	+1.5
国語の勉強は好きですか。	60.6	+3.6	69.3	+13.6

③ 肯定的な回答の割合が全国と比べて高かった 主な項目	小学校		中学校	
	袋井市	全国比	袋井市	全国比
今住んでいる地域の行事に参加していますか。	78.8	+21.0	66.7	+28.7
昨年度受けた授業で、PC、タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。(ほぼ毎日)	51.6	+23.4	59.5	+31.4
学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。	84.2	+7.0	84.2	+6.3

④ 肯定的な回答の割合が全国と比べて低かった 主な項目	小学校		中学校	
	袋井市	全国比	袋井市	全国比
学校が休みの日に1日当たりどれくらいの時間勉強しますか。(2時間以上と回答)	18.8	-5.6	30.8	-9.2

※ 上記の結果は、肯定的な回答をした児童生徒の割合を示したものです。

3 分析

(1) 学力調査の結果から

小学校	国語	○文章の概要が書かれた短文を選択する問題は、他の問題と比べて正答率が高い。 ● <u>複数の資料を関係づけて自分の考えを書く問題</u> は、他の問題と比べて正答率が低い。
	算数	○図形の定義を答える問題など、基本的な知識に関する問題については他の問題と比べて正答率が高い。 ● <u>根拠を示しながら答えの求め方を説明する問題</u> は、他の問題と比べ正答率が低い。

中学校	国語	○ <u>文章の内容を踏まえ、自分の考えを書く問題</u> については、いくつかの問題で全国よりも正答率が高い。 ●全国よりも正答率が高いものの、無答率も全国を上回っている問題がある。
	数学	○単語で答える問題や、選択式の問題では、正答率が全国を上回っているものが多い。 ● <u>記述式の問題</u> では、全国よりも無答率が高くなっているものが多い。
	英語	○英語による音声を正しく聞き取ったり、正しい単語や短文を選択したりする問題は他の問題に比べて正答率が高い。 ● <u>自分の考えを英文に書き表す問題</u> は、正答率が低く、さらに無答率も高くなっている。

(2) 学習状況調査の結果から

・朝食を毎日食べている。(小学校：93.9% 中学校：91.2%)

・毎日、同じくらいの時刻に起きている。(小学校：91.4% 中学校：90.1%)

⇒ 90%以上の児童生徒が肯定的な回答をしており、規則正しい生活習慣を身に付けている子どもが多くいることが分かります。

・今住んでいる地域の行事に参加している。(小学校：78.8% 中学校：66.7%)

・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。(小学校：82.8% 中学校：71.1%)

・人の役に立つ人間になりたいと思う。(小学校：95.9% 中学校：94.6%)

⇒ 毎年度、全国平均に比べて、肯定的に回答する児童生徒の割合が高く、袋井の子どもたちは自分たちが生活する地域に愛着を感じているとともに、地域のために自分にできることを実行していきたいという思いを持っていることが分かります。

・学校が休みの日に1日当たり2時間以上勉強をしている。

(小学校：18.8% 中学校：30.8%)

⇒ 全国に比べて割合が低く、休日に自主的に学習する時間が少ない傾向にあります。

(3) 正答率が高い児童生徒に見られる学習状況の傾向
(学力調査と学習状況調査の結果より)

- ・朝食を毎日食べている。
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ている。

⇒ 規則正しい生活習慣は、学習内容の定着に大きく影響していると考えられます。

- ・読書が好きである。

⇒ 読書をとおして新たな情報を得たり語彙を増やしたりすることは、読解力の向上につながり、「考える力」を身に付けていくための基礎になっていると考えられます。

- ・授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる。
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
- ・学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。

⇒ 課題解決のために自ら探究したり、他者と対話・議論をしたりする意識や姿勢が育まれることで、子どもの「考える力」が確実に定着していくと考えられます。

(4) 過去の結果をもとにした分析

学力調査

令和4年度までの調査結果から分析した、袋井市の課題

根拠をもとに自分の考えを書くこと

この力の育成を重点として授業改善に取り組んでいます。

【本年度の中学3年生】

過去の調査と、本年度の調査を経年的に分析。

☞ 国語：全国の平均正答率を下回るものの、全国との差は縮まってきた。

☞ 数学：全国の平均正答率を上回った。

★全体の結果だけでなく、課題としていた「根拠をもとに自分の考えを書く」に関連した問題についても改善が見られ、**授業改善に一定の成果が表れていると捉えています。**

学習状況調査

令和4年度の調査結果で、割合が高かった項目

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」

【上記に加え、本年度高くなった項目】

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」

★袋井市の子どもたちは、**自分以外の「人」を意識して、学んだり行動したりすることの意識が高く、そのよさを感じていると捉えています。**

4 今後の取組

子どもたちの「考える力」を確かに育てていくために、袋井市では『袋井型』授業づくりに取り組んでいます。これは以下の3つの要素を大切にして授業計画を立て、実践することです。

- ・ 子どもが考えたくなるような、「?型の学習課題」を設定する。
- ・ 自分自身の考えを深めるために、対話や議論の場を設定する。
- ・ 学習課題に対し、自分自身の納得のいく考えを書く「個のまとめ」の時間を設定する。

今回の結果分析を生かし、『袋井型』授業の質の向上を目指して次のことを意識し、授業改善をさらに進めていきます。

① 自分と友達の考えを関係づける対話

他者と対話をする中で、子どもたちは様々な考えに出会います。他者と自分の考えを関係づけながら繰り返し自分の考えを見つめ直していくことで、学習課題に対し自分自身の納得した考え方「納得解」にたどり着きます。

② 納得した考えの記述

授業の終末に自分自身の考えを文字にして書き表す、つまり「言語化」することで、自分が「何を」「どう」学んだかということを自覚し、学ぶことの楽しさや充実感を味わうことができます。

学習状況調査からも、袋井市の子どもたちは「他者のために活動する」ことにやりがいを感じていることが分かります。授業においても、友達と学び合うことを大切にしていきます。

家庭での過ごし方についても、ぜひ
お子さんと話し合ってみてください。

